



地域での集いの場づくり ～サロン活動へのサポート～

西脇市社協では、第2次地域福祉推進計画で「もっとええまち・西脇～だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を基本理念に掲げ、助け合い・支え合い体制の充実を図るため、住民が取り組む「ふれあいいいききサロン」の立ち上げ支援や継続的な運営のサポートを行っている。

サロンづくりへの働きかけ

社協では、自治会単位での「ふれあいいいききサロンづくり」を応援し、閉じこもりがちになる高齢者や子育て中の親子の交流の場を増やしている。

現在市内では、87自治会中66カ所でサロンが開催されており、その数は年々増加している。これは、サロンに興味のある住民やサロン運営者を対象とした意見交換会を開催し、自分たちの地域にあった集いの場づくりを考える機会をつくってきた成果である。

また、住民が集まる意義や効果、活動を進めていく上での留意点をまとめた『ふれあいいいききサロンの手引き』も作成し、立ち上げの後押しをしている。



手引きには企画に関するQ&Aも掲載

住民目線で「困った」から「楽しい」に転換を

サロンが立ち上がっても、その活動が地域に根付かなければ意味がない。住民自身が無理なく楽しみながらサロンの運営を続けられるよう、困ったときの側面的支援が重要となる。

そのため、プログラムのマンネリ化に悩むという声に応え、住民の関心の高い“健康維持”や“食事”に関して、血圧計などの貸し出しや講師派遣も行うとともに、助成制度を設けて資金的なバックアップも行っている。

また、広報紙にボランティアが作成した『ぽっかぽか通信』を盛り込み、サロンの様子などを住民目線で発信していることも特徴だ。手書きで味のある通信から、「自分たちの地域の様子が知れてうれしい」「サロンをやりたい」との反響も。

地域での助け合いを行っていくためには、住民がお互いに顔なじみになり、日々の会話の中から生活の困りごとや気になることを話し合うことが大切である。サロンでの交流が、助け合いの地域づくりに発展することが期待されている。



南本町和楽会での転倒防止体操の様子

取材を終えて

サロンに参加している皆さんの笑顔と、体調をお互いに気に掛ける姿が印象的でした。社協によるサロンへの支援が、「最近外出がおっくうになった」など、小さな変化に気付くきっかけづくりにつながっていると改めて実感しました。

会長から 西脇市社会福祉協議会 会長 大久保 恵司

西脇市は少子高齢化・核家族化が進み、高齢化率が30%を超えました。このような中、西脇市社協では、「もっとええまち・西脇～だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり～」の実現に向け、自治会単位で高齢者が集い、心身共に癒されるような『ふれあいいいききサロン』の開催を支援しています。高齢者が引きこもらないように、みんなで話し合い、工夫を凝らし、地域住民同士の絆を深めてもらえるようお手伝いをしています。これからも、市民と共に考え、市民に信頼され、愛される社協を目指し、これからの超高齢社会に備えたいと思っています。

